

戦略的プロジェクト研究推進事業

「家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発」

研究概要図

中課題番号	18065101
中課題名	家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
研究実施期間	平成30年度～平成34年度（5年間）
代表機関	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 （動物衛生研究部門）
研究開発責任者	西藤 岳彦
研究開発責任者 連絡先	TEL：029-838-7713
共同研究機関	国立大学法人鳥取大学農学部 沖縄県農林水産部家畜衛生試験場 株式会社微生物化学研究所 一般社団法人日本養豚開業獣医師協会 全国農業協同組合連合会全農飼料畜産中央研究所
農林水産省内 本事業担当	消費・安全局食品安全政策課食品安全技術室 代表：03-3502-8111（内線4451）

研究内容

野生動物等を介した家畜の 伝染病の伝播リスクの評価

- HPAIの野生鳥類や哺乳類における感染実験及び野生鳥類と家禽間の伝播性解析
- ASF及びFMDの野生動物や家畜における感染実験及び野生動物と家畜間の伝播性解析
- AVDの媒介節足動物における感染実験及び媒介節足動物の国内生息域及びAVD保有状況調査

伝染病の早期摘発や監視情報を 活用した防疫の最適化

- FMD、ASF、HPAI及びAVDの海外における発生情報の入手、流行株の性状解析による変異株等の把握
- 新たな流行株や変異株に対応した検査法やワクチンの検証・開発
- CWDの糞便検査法の開発
- サーベイランスなどの多様な情報を収集するシステムの開発と、このデータを活用して発生・流行を予測する手法の開発

伝染病発生時の 危機管理技術の開発

- HPAIの新規ワクチン開発
- IAV-S国内流行株に合うワクチン株の提案
- FMD備蓄ワクチンの有効性評価
- FMD・ASF抗ウイルス薬の開発及び使用法の確立

鳥取大学

野生哺乳類での感染実験や
農場周辺環境調査

動物衛生研究所
(台湾)

家畜衛生試験場
(沖縄)

海外で流行中の病原体の性質や
流行状況の把握

JASV

京都微研

JA研究所

IAV-S試料採取、試作ワクチン作製、
ワクチン接種豚管理

達成目標

家畜伝染病の野生動物や家畜
における感染性や伝播機序の
解明及び伝播・まん延防止
対策の確立

新たに出現した病原体に対応
できる検査・防疫体制の整備
多様なデータを活用した流行
の早期把握と予測・分析

家畜伝染病に対する新規
ワクチン、抗ウイルス剤及び
消毒剤の開発及び効果的な
使用法の確立

- ・家畜疾病まん延時にその感染拡大速度を抑えて全国的な被害を回避でき、国産畜産物の安定供給につながる。

注) HPAI: 高病原性鳥インフルエンザ、ASF: アフリカ豚コレラ、FMD: 口蹄疫、AVD: アルボウイルス感染症、
CWD: 慢性消耗病、IAV-S: 豚におけるA型インフルエンザウイルス感染